

令和6年度地域と市長のまちづくり懇談会 二川校区

開催年度回次	令和6年度第1回	開催月日	3月2日	開催校区	二川校区	開催場所	二川生涯学習センター
議 題				市の回答			
1 二川地区の交通渋滞緩和対策について 二川地区においては、日頃より交通渋滞が発生しており、何かしらの対策が必要だと感じています。 国道1号と県道3号線(立岩街道)をつなぐ計画道路について、過去に道路の線形や幅を検討するための調査が入ったと記憶していますが、その後、計画がどうなっているかご教授ください。 また、二川校区東部地域と湖西市西部地区の発展のために、渋滞対策をどのように考えているかお聞かせください。				道路建設課 二川地区周辺の主要幹線道では、交通集中による渋滞が慢性的に発生していることは、本市としても認識しております。 国道1号の三弥町交差点と県道3号線((主)豊橋湖西線)を結ぶ都市計画道路雲谷三弥線については、平成26年度から平成27年度にかけて道路の線形や幅員、計画区間に存在する河川や線路を横断するための橋梁の形式などを検討するための調査・設計を実施しました。 本路線は、新幹線や東海道本線と交差するため、JRと交差協議を行っておりますが、その中でJR側から事業実施にあたって、踏切1箇所の廃止を求められております。周辺踏切の廃止については、地元自治会の同意が得られておらず、現在、本路線の計画につきましては、JRと協議継続中となっております。 また、豊橋市と湖西市を結ぶ幹線道路である(主)豊橋湖西線を含む県境地域周辺の幹線道路の渋滞対策については、周辺企業からも要望をいただいております。今年度、豊橋市と湖西市で今後の方針について協議を行いました。その協議において、将来的に浜松湖西豊橋道路のICが県境地域に完成することで、さらなる企業立地が見込まれるため、この地域の渋滞対策について、連携して進めていくことになり、来年度、豊橋市と湖西市の共同で調査・検討業務を実施していきたいと考えております。			

開催年度回次	令和6年度第1回	開催月日	3月2日	開催校区	二川校区	開催場所	二川生涯学習センター
議 題				市の回答			
2 二川旧街道を通るコミュニティバスの新設について				都市交通課			
二川の旧街道沿いでは住民の高齢化が進み、豊鉄バスが走っているバイパス(立岩街道)へ出るためには坂を登る必要があり、公共交通の利用がしにくいと感じています。 二川地区の活性化のためにも、JR二川駅から旧街道を走り、二川宿本陣、駒屋、病院等を回るコミュニティバスの新設を検討していただきたいです。				本市のコミュニティバス(「地域生活」バス・タクシー)は、日常の移動手段を確保するために、地域住民が主体となり、交通事業者、行政が連携・協働して利用促進を行うなど運営をしております。 「地域生活」バス・タクシーを新設するには、地域勉強会を開催して、アンケート調査により地域住民のニーズや、収支見込みを把握します。その後、地域運営団体を設立し、2年程度の実証運行を行い、交通事業者や有識者などで構成される地域公共交通活性化協議会において、収支率などの達成状況により本格運行への移行が判断されることとなります。 まずは、地域勉強会を開催し、地域住民の意見を聞き取ることになりますが、その際にはお声かけください。			

開催年度回次	令和 6 年度第 1 回	開催月日	3 月 2 日	開催校区	二川校区	開催場所	二川生涯学習センター
議 題				市の回答			
3 とよはし健康の道「二川里山・森林浴コース」の廃止について				健康増進課			
豊橋市が設置している「とよはし健康の道」のうち、「二川里山・森林浴コース」は、かつて地域のボランティアが維持管理に関わっていましたが、令和3年度をもって廃止されてしまいました。廃止の経緯についてお聞かせください。				「二川里山・森林浴コース」は、地元の二川・大岩まちづくり協議会のボランティア部会（以下、ボランティア部会）からの要望を受け、市が国と国有林の貸付契約を結び、H17 年度から供用を開始しました。 休憩所や階段などハード整備については市が、里山利用に関するメンテナンスなどについてはボランティア部会の方が行う形で開始しましたが、一定規模の修繕などの維持管理は市が中心となっておりまして。H29 年度頃からは、台風や大雨後の倒木処理が毎年複数回発生し、R2 年度には約 130 本もの倒木の危険のある枯木が確認されました。 「二川里山・森林浴コース」を市民に安全に利用いただくためには、国有林の適切な維持管理が欠かせませんが、維持管理に要する経費や、健康の道として誰もが歩きやすい安全な他のコースがあることを鑑みますと、今後も市が所管し安全を確保し続けていくことは難しいとの判断から廃止を決定し、国に返還することとしたものです。 R3 年 9 月には、二川・大岩まちづくり協議会の発足当時の関係者及び関係する校区自治会長並びに二川中学校に対して、コースの廃止についてご報告させていただいております。 また、廃止に伴う代替えとして「二川さくら並木コース」を設定し、住民の方には回覧板を通じて周知させていただいております。			

開催年度回次	令和6年度第1回	開催月日	3月2日	開催校区	二川校区	開催場所	二川生涯学習センター
議 題				市の回答			
4 視聴覚教育センター移転後の跡地利用について 市長の公約で「のんほいパークを日本一のサイエンスパーク(科学教育拠点)へ」と掲げられており、視聴覚教育センターをのんほいパーク周辺へ移転するものと理解しています。移転後の跡地利用について、例えば、不登校対策や教育相談窓口等の教育関係施設として利用することなども考えられますが、どのようにお考えですか。				科学教育センター まず、視聴覚教育センターの移転の有無については、視聴覚教育センター・地下資源館・自然史博物館・動植物園の4つの施設の機能を整理したうえで、各施設の特色を生かした拠点づくりを目指し、現在作成を進めている「科学教育の拠点整備基本計画」の中でお示ししてまいります。 次に、例えば、今後視聴覚教育センターを移転することとした場合、視聴覚教育センター跡地の利用については、跡地のエリアが都市公園法の適用を受ける都市公園にあたり、設置できる施設が教養施設などを含む公園施設に限定されることから、ご提示いただいた案など教育に関連した施設も含め、市役所内で関係部署と共に検討を進めてまいります。			